（別紙様式4）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和3年7月27日※1
（前回公表年月日：令和2年11月16日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
九州医療スポーツ専門学校	平成20年3月31日	赤木　恭平	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1番2号 （電話）093-531-5331
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人国際学園	昭和34年10月13日	水嶋　昭彦	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1番2号 （電話）093-531-5331

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養課程	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	平成27年文部科学省告示第13号	―

学科の目的	専門職に必要な知識・技能を教授することにより、地域医療の一端を担い、安全なるスポーツ活動のサポートを通して国民の健康増進に貢献する有能な人材を養成することを目的とする。
認定年月日	平成29年2月28日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜間	94	72	0	22	0	0
							単位

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人	39人	0人	5人	18人	23人

学期制度	■前期：4月 1日～ 9月30日 ■後期：10月 1日～ 3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 試験やレポートによる総合評価で優・良・可・不可の4段階評定。試験日欠席や合格点に満たなかった場合の追再試験あり。ただし、所定の出席時数を満たさなければならない。
長期休み	■夏期：8月上旬から 8月下旬までの間で本校が定めた期間 ■冬期：12月下旬から 1月上旬までの間で本校が定めた期間 ■春期：3月下旬から 4月上旬までの間で本校が定めた期間	卒業・進級条件	当該学年における必須授業科目の単位修得
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 保護者連絡および個別面談を実施	課外活動	■課外活動の種類 学園祭、専門学校体育大会 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和2年度卒業生） フィットネスクラブ、整骨院、デイケアサービス ■就職指導内容 キャリアサポートセンターによる就職指導 ■卒業者数：18 人 ■就職希望者数：12 人 ■就職者数：11 人 ■就職率：91.7 % ■卒業者に占める就職者の割合：61.1 % ■その他 卒業者に占める就職者以外の者：7人 （内訳）進学：5人、家事手伝い：1人、就職活動：1人 （令和　2　年度卒業者に関する令和3年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） 資格・検定名 / 種別 / 受験者数 / 合格者数 健康運動実践指導者 / ② / 15人 / 14人 ジュニアスポーツ指導員 / ② / 18人 / 17人 トレーニング指導者 / ② / 18人 / 16人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 トレーニング指導者は、JATI-ATIによるもの。
中途退学の現状	■中途退学者　6 名　■中退率　12.8 % 令和 2年 4月 1日時点において、在学者 47名（令和 2年 4月 1日入学者を含む） 令和 3年 3月31日時点において、在学者 41名（令和 3年 3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 年度内に3回の教育相談週間を設けて学生との個別面談を実施している。		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 全国高校総体、国民体育大会出場またはそれに準ずる大会出場経験や、プロスポーツまたはアマチュアスポーツにおいて活躍実績のある者。入学金及び授業料を、実績に応じて20万円～全額を免除。 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象 ※前年度給付実績者数：なし		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）		
当該学科のホームページURL	https://www.kmsv.jp/trainer/		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナーの必要性・重要性の理解が進むに連れ、トレーナーに期待されるニーズもより深化している。そこでトレーナーに対する最新のニーズについて教育課程編成員会を通して関連する企業や団体から提案してもらい、それらを学科のカリキュラム等に反映させることで職業教育の水準向上を図ることを基本方針とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記。

本校は、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業、大学等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成（授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を含む。）に活かすことを目的に学科毎に教育課程編成委員会を設置する。委員会は6月と11月の年2回の開催を原則とし、業界における人材の専門性等の動向、国または地域の産業振興の方向性、実務に必要な最新の知識・技術・技能等について審議する。委員会から提出された提言は、学科会議において協議し、教育課程に反映させるように努める。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
吉井　剛	福岡県障害者スポーツ指導者協議会　トレーナー部長	R3年4月1日～R5年3月31日（2年）	①
長瀬　亮昌	株式会社WAFA　代表取締役	R3年4月1日～R5年3月31日（2年）	③
中島　喜代彦	九州医療スポーツ専門学校　副校長		
味村　吉浩	九州医療スポーツ専門学校　副校長		
桑野　幸仁	九州医療スポーツ専門学校　教務部長		
寺本　敦司	九州医療スポーツ専門学校 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科長		
川上　吉晃	九州医療スポーツ専門学校 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員		
都地　英雄	九州医療スポーツ専門学校 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員		
吉田　裕也	九州医療スポーツ専門学校 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

6月と11月の年2回。ただし、開催の必要があると委員が判断した場合は、委員長に開催を願い出ることができる。

（開催日時（実績））

令和2年度（第1回）令和2年8月7日　17:00～19:00
令和2年度（第2回）令和2年11月6日　17:00～19:15
令和3年度（第1回）令和3年7月2日　17:00～19:00
令和3年度（第2回）令和3年11月（予定）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会で提起された主な意見

（令和3年度第1回）

①（トレーナー現場実習1～3）最近、スマートフォンなどのアプリケーションなどを活用し、野球であったり、ランニングであったり、その姿勢分析、動作分析などをしていくことが求められるようになると考える。アスレティックトレーナーも、映像や数値をもとに選手などへのフィードバックが求められる。そういった中で、選手に対し、効果的なフィードバックができるような能力が求められると考えられる。

②（トレーナー現場実習1～3）多くのスポーツ現場を見て、チーム・競技によってカラーがあると思われる。様々なスポーツ現場を提供することにより、そこで知識が不足していたことを学校で学ぶ意欲へとつながっていると思われる。また、以前ではアスレティックトレーナーを学んだことにより、競技スポーツでのアスレティックトレーナーを目指す学生もいる。しかし、最近ではコンディショニングジムでの就職を希望する学生も多くなってきており、競技スポーツチームにとらわれずにパーソナルジム、コンディショニングルームでの実習を検討していく必要があると考える。

提起された意見に対する対応（反映させた授業科目等）

（令和3年度第1回）

①（トレーナー現場実習1～3）今後、授業カリキュラムを運営していく上で、選手のパフォーマンスを数値化していき、適切に対応していける能力の育成を目指していきたいと考える。また、スマートフォンを用いて動作分析できるアプリケーションがあると考える。そして、選手のパフォーマンスのどの部分に焦点をあて、動作分析ができるのかを検討していきたい。

②（トレーナー現場実習1～3）例年において、近畿大学におけるスポーツ施設の見学は実施していた。今後は、卒業後を視野に入れてパーソナルジム・コンディショニングジムなどの実習先開拓をしていきたい。競技スポーツに偏らず、健康増進施設、民間のフィットネスクラブといった幅広くスポーツに関わる施設を見学、実習先として検討していき、色々なアスレティックトレーナーのあり方を提供していきたいと考える。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等にあたる専任教員には、前線で活躍している臨床経験豊かなスポーツトレーナーを選定する。
専門科目の授業の一部を担当する外部講師の選定に当たっては、スポーツトレーナーとしての実践経験豊富な者を選定する。
総合実習をはじめ、実技・演習などは、できる限り実践の場ないしは実践を想定した環境にて行う。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記。

企業等と連携して行う科目として、コンディショニング2・3が挙げられる。実習では、スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして指導経験豊富な教員に出講依頼している。担当教員とは、業界で必要とされる人材、今後の動向についての意見交換を行っている。将来、学生らがスポーツ現場で必要とされる人材の育成を第一の目標として、企業等との連携を図っている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
コンディショニング2	外部の大学より専門家を招いてストレッチング、テーピング、コンディショントレーニングについて実習を行う。	久留米大学
コンディショニング3	コンディショニングの専門家により、トレーニング指導者として安全かつ効率的に陸上トレーニングと水上トレーニングができるようになる実践力を獲得することを目的とする。	きよた鍼灸院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 本校の教育目標達成のために必要な教員の研修・研究支援を積極的に推進する。そのための教職員研修規程を設けている。支援の内容を、学生教育に資することと各教員の専攻する専門領域の学究に資することとに大別する。学生教育に資することとして、教育力向上が期待できるさまざまな研修会への参加や学会への入会が想定される。同時に医療施設や介護施設の現場研修等を通しての最新の現場現状の把握などが想定される。教員の専門領域の学究に資することとしても、前述と同様なことが想定される。本校のFD（Faculty Development）の一環として、学生教育に資することを目的に外部講師による講義やワークショップを行う。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名：「FMS Level. 1・2セミナー」（連携企業等：株式会社Functional） 期間：令和2年9月4日（金）～6日（日） 対象：学科専任教員1名 内容：動作パターンに対するスクリーニング・評価方法　ほか 研修名：「令和2年度 健康運動実践指導者実技試験 実技評価委員研修会」 （連携企業等：公益財団法人健康・体力づくり事業財団） 期間：令和2年10月1日（木） 対象：学科専任教員1名 内容：陸上運動及び水中運動 評価方法及び採点の視点について 研修名：「普通救命救急講習」（連携企業等：総務省消防庁） 期間：令和2年11月30日（月） 対象：学科専任教員1名 内容：一般市民におけるCPRおよびAED使用 研修名：「フットサルにおける運動強度～活動中のモニタリングとコントロールを考える」 （連携企業等：公益財団法人日本サッカー協会） 期間：令和3年3月5日（金） 対象：学科専任教員1名 内容：フットサルにおける運動強度　ほか ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名：「障がい者スポーツ指導員対象オンデマンド講座」 （連携企業等：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会） 期間：令和3年1月29日（金） 対象：学科専任教員1名 内容：コミュニケーション能力向上に必要なスキル習得について 研修名：「健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会」 （連携企業等：公益財団法人健康・体力づくり事業財団） 期間：令和3年3月21日（月） 対象：学科専任教員1名 内容：認定試験（指導実技試験）評価総括　ほか
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名：「JFAフィジカルフィットネスC級コーチ養成講習会」（連携企業等：公益財団法人日本サッカー協会） 期間：令和3年12月9日（木）～12日（日） 対象：学科専任教員1名 内容：サッカーで要求される体力 ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名：「JATI認定トレーニング指導者養成校・養成機関説明会」 （連携企業等：特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会） 期間：令和3年4月19日（月） 対象：学科専任教員1名 内容：日本トレーニング指導者協会および認定資格について　ほか

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を推進するために、学則第30条の（7）および細則第76条に規定した「学校関係者評価委員会」を設置した。この委員会は、関係団体役職員・高等学校の校長・同窓会役員の学外関係者のみで組織し、学内組織である「自己点検・自己評価委員会」から出された点検および評価結果をもとにさまざまな方面から検討・協議することを責務とする。本校は、学校関係者評価委員会からの提言等をもとに、より良い学校を訴求していく。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、特色、将来構想
（2）学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、処遇、意思決定、情報システム
（3）教育活動	業界ニーズ、到達レベル、カリキュラム、評価体制、評価基準、指導体制
（4）学修成果	就職率、資格取得率、退学率、社会的活動
（5）学生支援	就職・進学指導体制、相談体制、経済的支援体制、生活環境、保護者連携他
（6）教育環境	施設・設備、学外実習等、防災体制
（7）学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考基準、学納金
（8）財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
（9）法令等の遵守	設置基準、個人情報、自己評価と公開
（10）社会貢献・地域貢献	学校教育資源の活用、ボランティア活動
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で提起された意見

①（基準3～4）次回評価時に、自己評価基準の統一化を図った上で各学科の報告をお願いしたい。
②（基準3～4）国家試験合格率その他の資格取得率および就職率の数値を各学科で提示して頂きたい。
③（基準3～7）各教員の個人業績評価を実施して頂きたい。
④（基準3、6）FD（ファカルティ・ディベロップメント／教員の教育能力を高めるための実践的方法）の実践を図り、若手教員の育成を行って頂きたい。
⑤（基準3、6）学科から非常勤講師に対し、遠慮することなく教授内容および方針を提示して頂きたい。
⑥（基準10）地域貢献を前提に、地域との連携を模索して頂きたい。

提起された意見に対する対応

①（基準3～4）各学科の学科長を招集し、令和2年度の評価結果を参照して評価基準の統一化を図ります。
②（基準3～4）国家試験合格率、入学率、退学率、就職率等のデータを学科ごとに集計し、自己点検・自己評価の集計資料に添付します。
③（基準3～7）個人業績評価については、年間授業科目担当・時間数、研究件数等の内容に関する形式等を作成するとともに、対社会活動等の実績を報告できるようにします。
④（基準3、6）FD実践のための委員会を立ち上げ、FD実践計画を立案します。
⑤（基準3、6）講師会議を年間に1回、3月末を目処に実施し、各学科の教育目標およびポリシーのもとに非常勤講師への要望・要求を提示し、教授内容および教授方法の改善を促すよう努めます。
⑥（基準10）各学科における現行の地域貢献事業のほか、新規の連携事業の調査を実施し、可能な事業に随時対処するようにします。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
西原　達次	公立大学法人九州歯科大学（理事長・学長）	R3年4月1日～R5年3月31日（2年）	学識経験者
堀　　修	福岡県立小倉商業高等学校（校長）	R3年4月1日～R5年3月31日（2年）	高校関係者
甲山　博美	北九州市商業総連合会（会長）	R3年4月1日～R5年3月31日（2年）	企業関係者
大森　弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会（会長）	R3年4月1日～R5年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL ：　https://www.kmsv.jp/publication/

公開時期 ：７月末

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では平成22年度より学生による授業評価を実施し、その結果を担当教員にフィードバックすることをもって自己点検・自己評価と位置づけてきたが、今後はそれを前述「4.（2）専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠した内容にまで拡大し、そのすべての結果を本校の学校関係者評価委員会に提示する。学校関係者評価委員会から得られた提言に対する本校および学科の見解や対応等については、本校のホームページで企業等の学校関係者に対して情報の提供を行う。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	教育理念、学校の特徴、施設設備、教育目標および授業実施計画、校長名、所在地、連絡先等、その他の諸活動に関する計画
（2）各学科等の教育	学科紹介、資格取得内容、シラバス、募集要項（選考方法と募集定員）
（3）教職員	教員情報
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取組、実技・実習等の取組、就職支援等の取組
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
（6）学生の生活支援	指定寮およびアパート等紹介、学生相談、就学支援
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金制度、専門実践教育給付金
（8）学校の財務	貸借対照表
（9）学校評価	自己点検自己評価・学校関係者評価委員会評価
（10）国際連携の状況	外国の学校等との交流状況
（11）その他	国家試験合格率

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

ホームページ

URL ：　https://www.kmsv.jp/publication/

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）令和３年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツ社会学	スポーツとの社会のかかわりが深まる時代において、スポーツ指導者はそのことを理解し、スポーツ普及のあり方がどのように進んでいくのかを考えていく。その中で、スポーツの社会的意義、在り方について理解する。	1前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツ倫理学	スポーツ指導の現場において、起こりうる倫理的問題について学習していく。また、スポーツ指導者の反倫理的言動が何かを理解し、その言動がアスリートなどにどのような影響を与えていくのかを理解する。	1後	16	1	○			○		○		
3	○			スポーツ指導学	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者として、安全なスポーツ環境を構築・問題発生時の対処法の流れについて学習し、コーチングの留意点、運動プログラム作成に必要なことを理解する。	1後	30	2	○			○		○		
4	○			コーチング学	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者に必要とされる基本的な思考や態度・行動について学習し、グッドコーチに求められる人間力を理解する。また、コーチに求められる役割、知識・スキルについて理解する。	1前	30	2	○			○		○		
5	○			トレーニング科学1	スポーツ指導者として、トレーニングに必要な基礎知識について学習していく。そして、最新の科学的研究成果に基づくトレーニング理論を基盤として、「トレーニング計画」を立案していく。	1前	30	2	○			○			○	
6	○			保健体育理論1	生涯スポーツトレーナーとして社会貢献するために必要な、スポーツ科学領域【関係法規、保健指導、スポーツ栄養学、スポーツ医学、解剖生理学等】について理解する。	1前	32	2	○			○		○		
7	○			保健体育理論2	生涯スポーツトレーナーとして社会貢献するために必要な、スポーツ科学領域【スポーツ医学と健康管理、スポーツ外傷と熱中症、メンタルトレーニング、コーチング等】について理解する。	1後	32	2	○			○		○		
8	○			スポーツ競技各論	アスレティックトレーナーとして、競技特性・ルール・起こりやすい傷害、トレーニング方法について学習し、スポーツ現場を想定したトレーニングプログラムの構築に必要な知識を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
9	○			スポーツ医学	スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ医学の基礎知識を学ぶ。加齢による身体の特徴を理解させる。体力が身体の健康に深くかかわっていることや、スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果などについて理解する。	1前	30	2	○			○			○	
10	○			スポーツ栄養学1	競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を理解する。	1前	16	1	○			○			○	
11	○			スポーツ心理学1	スポーツ実施者の行動を、スポーツ心理学の見解をもとに、その本質を特定し、運動技能学習のメカニズムを理解する。これにより、スポーツや運動行動を、科学的・客観的に分析・評価するための基礎的知識を理解する。	1後	24	1	○			○			○	
12	○			トレーナー基礎演習	トレーナーとして必要な基礎知識(解剖学、スポーツ医学など)について理解する。	1前	30	2	○			○		○		
13	○			アスレティックトレーナーの役割	アスレティックトレーナーについて、その役割（アスレティックトレーナーとは、アスレティックトレーナーの役割、医科学スタッフとの連携・協力、組織運営と管理、アスレティックトレーナーと倫理）を理解する。	1前	30	2	○			○		○		
14	○			トレーニング科学2	トレーニングの種類や、科学的基礎にもとづいた効果と評価、性、発育・発達、老化、栄養、疲労と疲労回復、環境、オーバートレーニングについて理解する。	1後	30	2	○			○			○	
15	○			トレーニング指導者実習	スポーツトレーナーとして、安全かつ効果的にトレーニング指導が行えるように、基本的なトレーニングフォーム、指導方法を理解する。	1前	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）令和３年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			バイオメカニクス	バイオメカニクスの基本理論（筋の仕組みと働き、筋活動のエネルギー供給など）を学習していく。それらの知識を踏まえ、各運動動作（歩動作、走動作、投動作など）に必要な運動技術について理解する。	1後	30	2	○			○			○	
17	○			検査と測定の手法1	アスレティックトレーナーが現場で評価をする上で必要となる、姿勢の観察、柔軟性、筋力などの検査・測定と評価について理解する。	2前	20	1	○			○			○	
18	○			検査と測定の手法2	アスレティックトレーナーが現場で評価する上で必要となる、筋持久力や身体組成などの検査・測定と評価について理解する。	2前	20	1	○			○			○	
19	○			運動処方論	運動効果と運動不足、トレーニングの原則と効果、エクササイズガイド、有酸素運動の特徴と効果、肥満と運動、糖尿病と運動、高齢者と運動について理解する。	2後	30	2	○			○		○		
20	○			体力測定法	健康・体力に関連するさまざまな体力要素（身体組成、全身持久力、筋力・筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性）について、測定方法の実習とその評価を行い、スポーツ指導者としての基礎的能力を養う。	2前	16	2	○			○		○		
21	○			テーピング・手技療法実習	スポーツ指導者に必要なテーピングとストレッチング（パーソナル）を習得する	1前	30	1			○	○			○	
22	○			トレーニング指導者理論1	トレーナーとしての基礎知識入門（筋肉名称・起始停止・作用・骨・関節）。また、それに伴う各部位の動きを学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
23	○			トレーニング指導者理論2	トレーナーとしての基礎知識（解剖学）をベースに、各競技特性に適したトレーニングメニュー、プログラム作成できる能力を身につけさせる。	1後	30	2	○			○		○		
24	○			運動生理学	運動・スポーツによって、カラダにどのような変化が出てくるのかを学んでいく。運動生理学を学ぶことで、体力向上、パフォーマンス向上方法を理解していく。	1前	30	2	○			○			○	
25	○			運動器の解剖と機能1	運動器の構造と機能や、体幹の解剖や運動について理解する。	1前	20	1	○			○			○	
26	○			運動器の解剖と機能2	上肢の解剖や運動（屈曲、伸展）について理解する。	1前	20	1	○			○			○	
27	○			運動器の解剖と機能3	下肢の解剖や運動（屈曲、伸展）について理解する。	1前	20	1	○			○			○	
28	○			スポーツ栄養学2	選手のコンディショニングにおける、食事・栄養摂取の重要性について理解し、競技特性の異なるアスリートの日常的な栄養ケアについて理解する。	2後	30	2	○			○			○	
29	○			スポーツ心理学2	スポーツと認知、動機づけ、目標設定、運動の学習、スポーツと発達、競技者の性格と態度、パーソナリティ、メンタルトレーニング、スポーツカウンセリングについて理解する。	2前	30	2	○			○			○	
30	○			救急処置	アスレティックトレーナーとして重要な役割である、緊急時を含めたスポーツ現場での救急処置を理解する。	1前	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）令和３年度																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
31	○			ＡＴ概論1	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキストの記載内容を確認し、理解を深め、アスレティックトレーナーとして求められる知識を身につける事を目的とする。	2前	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）令和３年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
32	○			ＡＴ概論2	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキストの記載内容を確認し、理解を深め、アスレティックトレーナーとして求められる知識を身につける事を目的とする。	2前	30	2	○			○		○		
33	○			ＡＴ概論3	AT理論試験過去問題を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高める、AT理論試験合格につなげていく。 （救急処置、運動器の解剖と機能）	2前	30	2	○			○		○		
34	○			ＡＴ概論4	AT理論試験過去問題を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高める、AT理論試験合格につなげていく。 （スポーツ医学分野）	2前	20	1	○			○		○		
35	○			ＡＴ概論5	AT理論試験過去問題を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高める、AT理論試験合格につなげていく。 （アスレティックリハビリテーション）	2前	30	2	○			○		○		
36	○			スポーツ動作の観察と分析	アスレティックトレーナーに必要な評価、各スポーツで必要とされる動作の観察と分析（歩動作、走動作、跳動作、投動作、打動作、蹴動作、滑動作、泳動作、漕動作）について理解する。	2前	20	1	○			○			○	
37	○			コンディショニング1	選手のパフォーマンス発揮に必要なコンディションの把握・管理と調整方法（競技力向上、傷害予防）、競技種目別の特性　、外傷・障害予防に必要な環境整備について理解する。	2前	30	2	○			○			○	
38	○			コンディショニング2	アスレティックトレーナーに求められる実技方法（ストレッチング、テーピング、コンディショントレーニング）について実技試験を想定した実践形式の授業を行う。	2前	30	1			○	○			○	○
39	○			コンディショニング3	各専門的トレーニングと測定法（スプリントと持久性トレーニング、ウォーミングアップ・クーリングダウン、身体組成・柔軟性評価テスト、アクアコンディショニング）について実践形式の授業を行う。	2前	30	1			○	○			○	○
40	○			ジュニアスポーツ理論	子どもの発育・発達期の身体的心理的特徴、子どもたちに対してのスポーツの必要性、コーディネーション能力を高めるプログラム作成・指導方法について理解する。	2後	30	2	○			○		○		
41	○			ジュニアスポーツ実技	子どもの発育・発達期の身体的心理的特徴を理解し、コーディネーション能力を高めるプログラム作成・指導の実習を行う。	2後	16	1			○	○		○		
42	○			ＳＡＱトレーニング実習	競技の専門的スキルの基礎、スピード（重心移動の速さ）・アジリティ（運動時に身体をコントロールする能力）・クイックネス（刺激に反応し、早く動き出す能力）を実習にて理解する。	1前	30	1			○	○			○	
43	○			アスレティックリハビリテーション1	アスレティックリハビリテーションの定義・概要を学び、アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの基礎知識を理解する。	2前	30	2	○			○			○	
44	○			アスレティックリハビリテーション2	上肢と体幹の外傷に対するアスレティックリハビリテーションについて、傷害部位や身体に悪影響を及ぼし得るリスクを抽出・把握・対策を講じた上でのプログラム作成と実践を身につける。	2前	30	2	○			○			○	
45	○			アスレティックリハビリテーション3	下肢の外傷に対するアスレティックリハビリテーションについて、傷害部位や身体に悪影響を及ぼし得るリスクを抽出・把握・対策を講じた上でのプログラム作成と実践を身につける。	2前	30	2	○			○			○	
46	○			スポーツ外傷と障害1	アスレティックトレーナーとして、年齢、性差などによって生じるスポーツ外傷・障害の特徴を理解する。	1前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）令和３年度																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
47	○			スポーツ外傷と障害2	アスレティックトレーナーとして把握しなければならない上肢・下肢・体幹の主なスポーツ外傷や重篤外傷の特徴を理解する。	1前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）令和３年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
48	○			スポーツ医学2	骨格筋と神経の仕組みと働きを理解し、基礎的知識を学ぶ。スポーツ活動中に起きやすい一般的な外傷・障害を各部位ごとに理解し、予防法や対処法の理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
49	○			救急処置実習	現場での一次救命処置（心肺蘇生・AEDを用いた除細動・気道異物除去）、またその他の傷害に対する処置（止血・固定・搬送）を理解する。	1後	30	1			○	○			○	
50	○			トレーナー実習1	スポーツ現場の見学を通してアスレティックトレーナーとして必要な資質を身につける事を目的とする。	1前	30	1			○		○	○		
51	○			トレーナー実習2	アスレティックトレーナーとして検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラムができるようになる。	1前	30	1			○		○	○		
52	○			トレーナー実習3	スポーツ現場でのアスレティックトレーナーの業務を実践できるような基礎能力を取得する。	1後	30	1			○		○	○		
53	○			トレーナー実習4	アスレティックトレーナーとしてアスレティックリハビリテーションが実践できるようになる。	2前	30	1			○		○	○		
54	○			トレーナー実習5	アスレティックトレーナー7つの役割の基本的な事項を行うことが出来るようになることを目的とする。	2前	30	1			○		○	○		
55	○			トレーナー実習6	アスレティックトレーナー7つの役割の基本的な事項を行うことが出来るようになることを目的とする。	2後	30	1			○	○		○		
56	○			トレーナー応用実習1	スポーツ現場での傷害発生時の応急処置に必要なスペシャルテストなどの評価能力と応急処置を身につける事を目標とする。	2後	30	1			○	○		○		
57	○			トレーナー応用実習2	アスレティックトレーナーとしての適切な傷害の初期評価及び応急処置ができる事を目的とする。	2後	30	1			○	○		○		
58	○			トレーナー応用実習3	アスレティックトレーナーとして現場で必要なスキルを学ぶ事を目的とする。	2後	30	1			○	○		○		
59	○			トレーナー応用実習4	アスレティックトレーナーとして現場で必要なスキルを学ぶ事を目的とする。	2後	30	1			○	○		○		
60	○			生涯スポーツトレーナー実習1	生涯スポーツの観点から、柔軟性プログラムを対象者(個別～団体)の状況に応じて安全かつ効率的に指導できる能力を育成する	2後	16	1			○	○		○		
61	○			生涯スポーツトレーナー実習2	アスリート以外のトレーニングを対象者の状況に応じて安全かつ効率的に指導で指導できる能力を育成する。	2後	16	1			○	○		○		
62	○			フィットネスエクササイズ	有酸素運動の特性と効果を理解し、エアロビックダンス及びアクアビクスの基礎動作を習得する。また音楽に合わせた指示出しや指導ができるようになる。	2前	30	1			○	○			○	
合計					62科目			1,714単位時間（ 94単位）								

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科）令和３年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(卒業要件)全ての授業科目における単位(全88単位)を修得。 (履修方法)本校に登校した上で、講義、実技、及び実習を履修する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	24週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。